

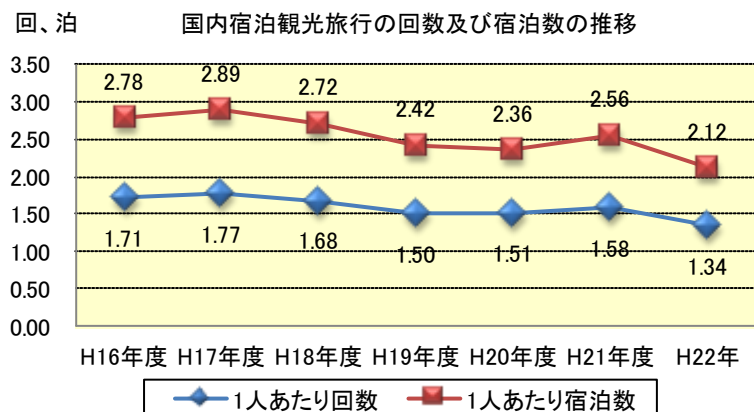
## 第2章 敦賀市の観光を取り巻く状況

### 第1節 観光をめぐる動向

#### 1 国内観光旅行の動向

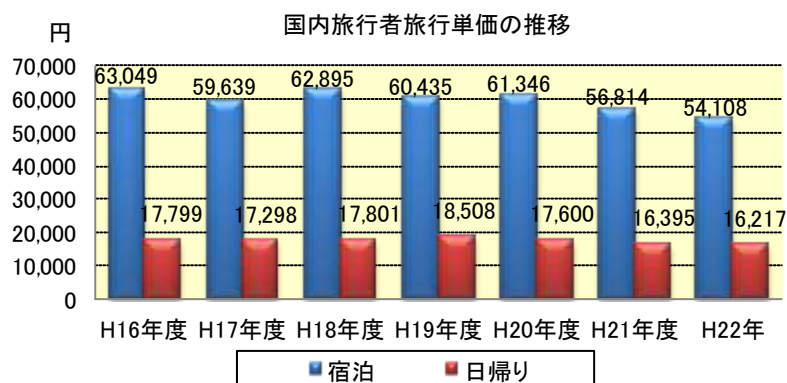
##### (1) 宿泊・日帰り旅行等の動向

宿泊・日帰り旅行等の動向をみると、国民1人あたりの旅行回数及び宿泊数は減少傾向が続いています。平成21年度は新型インフルエンザによる影響から、比較的安全な国内旅行への一時的な回帰現象が旅行回数等を押し上げる要因となりました。しかし、平成22年は国内において記録的な猛暑をはじめ、口蹄疫や鳥インフルエンザなどが人々の出足に影響する結果となりました。



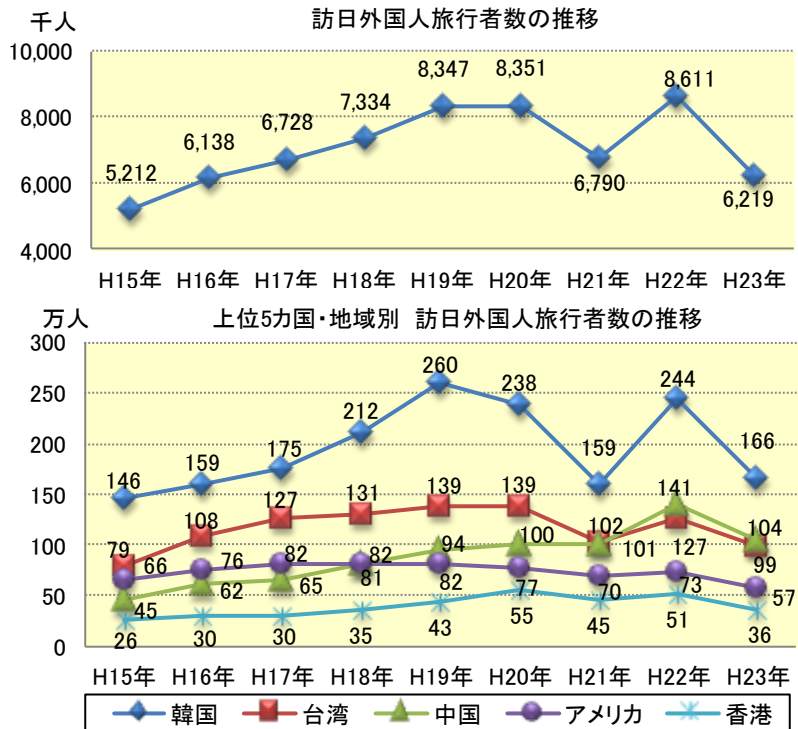
資料：「旅行・観光消費動向調査」  
※平成22年より集計単位が年度から年に変更

宿泊・日帰り旅行等に係る消費動向をみると、国内宿泊旅行者旅行単価及び国内日帰り旅行者旅行単価ともに減少傾向が続いており、長引く景気低迷による影響がみられます。



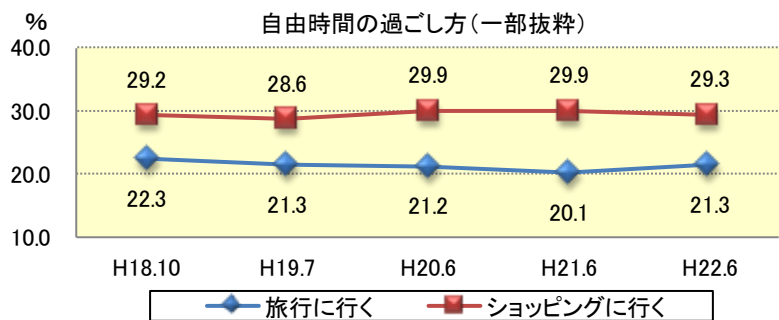
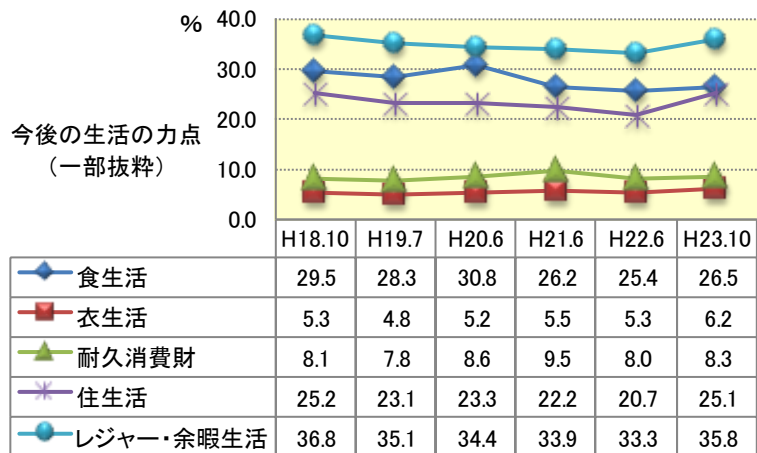
資料：「旅行・観光消費動向調査」  
※平成22年より集計単位が年度から年に変更

一方、訪日外国人旅行者数については平成15年から始まった「ビジット・ジャパン事業」により、平成22年には過去最高の861万人が来日しましたが、平成23年については、東日本大震災の影響により622万人と大きく落ち込んでいます。ここ数年は、韓国や中国、台湾といった経済成長の著しい東アジア諸国からの来訪者が、大きく増加する傾向がみられましたが、領土・領海等の問題による旅行者数への影響が懸念されます。



資料：「平成24年度版 観光白書」

観光への潜在的な需要をデータからみると、内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」では、今後の生活の力点として、「レジャー・余暇生活」が約36%と最も高く、さらに、自由時間の過ごし方として、「旅行に行く」が20%をこえる割合を占めていることから、観光への潜在的なニーズは依然として高いことがみられます。



資料：「国民生活に関する世論調査」

社団法人日本観光協会の調査によると、宿泊観光旅行への参加回数についてはここ数年、20歳代、50歳以上の女性や40歳以上の男性が高くなっています。さらに参加率についても、20歳代の女性が高く、また、50歳以上についても旅行への参加が手堅いことから、団塊の世代を含めたこれらの層は、観光へのターゲットとして重要な層となっています。

■ 宿泊観光旅行参加回数の推移（性・年齢別）

|        | 平成<br>2年 | 平成<br>8年 | 平成<br>12年 | 平成<br>17年 | 平成<br>19年 | 平成<br>21年 | 平成<br>22年 |
|--------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 全体     | 1.24     | 1.28     | 1.18      | 1.08      | 1.06      | 1.10      | 0.95      |
| 男性     | 1.26     | 1.35     | 1.17      | 1.08      | 1.19      | 1.12      | 0.96      |
| 15～17歳 | 0.94     | 0.60     | 0.74      | 0.81      | 0.47      | 0.81      | 0.59      |
| 18～19歳 | 0.80     | 0.59     | 0.71      | 0.97      | 1.20      | 0.84      | 0.21      |
| 20～29歳 | 1.56     | 1.38     | 1.03      | 0.67      | 0.83      | 1.13      | 0.66      |
| 30～39歳 | 1.24     | 1.40     | 1.03      | 0.96      | 0.97      | 1.08      | 0.91      |
| 40～49歳 | 1.26     | 1.27     | 1.02      | 1.25      | 0.91      | 1.10      | 1.07      |
| 50歳以上  | 1.25     | 1.51     | 1.33      | 1.23      | 1.17      | 1.18      | 1.08      |
| 女性     | 1.22     | 1.22     | 1.19      | 1.09      | 1.10      | 1.08      | 0.94      |
| 15～17歳 | 0.85     | 0.62     | 0.62      | 0.87      | 0.92      | 0.65      | 0.46      |
| 18～19歳 | 0.75     | 1.02     | 1.00      | 0.63      | 0.71      | 0.71      | 0.88      |
| 20～29歳 | 1.66     | 1.64     | 1.32      | 1.12      | 1.10      | 1.28      | 1.13      |
| 30～39歳 | 1.10     | 1.13     | 1.05      | 0.79      | 0.99      | 1.08      | 0.89      |
| 40～49歳 | 1.09     | 1.00     | 1.05      | 0.97      | 0.86      | 0.93      | 0.68      |
| 50歳以上  | 1.30     | 1.28     | 1.30      | 1.24      | 1.24      | 1.12      | 1.01      |

■ 宿泊観光旅行参加率の推移（性・年齢別）

|        | 平成<br>2年 | 平成<br>8年 | 平成<br>12年 | 平成<br>17年 | 平成<br>19年 | 平成<br>21年 | 平成<br>22年 |
|--------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 全体     | 56.7%    | 56.5%    | 55.0%     | 49.2%     | 49.2%     | 49.7%     | 43.1%     |
| 男性     | 57.8%    | 56.4%    | 54.8%     | 48.9%     | 48.2%     | 49.7%     | 44.1%     |
| 15～17歳 | 41.9%    | 39.7%    | 66.9%     | 42.6%     | 40.8%     | 50.0%     | 37.5%     |
| 18～19歳 | 46.4%    | 41.2%    | 44.4%     | 54.8%     | 33.3%     | 36.0%     | 21.1%     |
| 20～29歳 | 67.9%    | 56.0%    | 54.1%     | 38.4%     | 43.7%     | 41.2%     | 35.1%     |
| 30～39歳 | 56.7%    | 58.5%    | 52.7%     | 43.6%     | 53.7%     | 50.4%     | 50.8%     |
| 40～49歳 | 61.9%    | 59.0%    | 60.4%     | 51.5%     | 47.1%     | 56.7%     | 49.8%     |
| 50歳以上  | 56.1%    | 57.8%    | 54.3%     | 51.9%     | 43.1%     | 50.1%     | 43.4%     |
| 女性     | 55.6%    | 56.6%    | 55.1%     | 50.4%     | 48.2%     | 49.6%     | 42.1%     |
| 15～17歳 | 51.6%    | 45.0%    | 48.2%     | 45.7%     | 56.9%     | 43.8%     | 24.4%     |
| 18～19歳 | 50.0%    | 53.7%    | 51.9%     | 40.0%     | 47.6%     | 54.2%     | 50.0%     |
| 20～29歳 | 59.4%    | 64.9%    | 52.9%     | 57.5%     | 54.5%     | 57.0%     | 44.4%     |
| 30～39歳 | 57.8%    | 56.0%    | 54.9%     | 47.3%     | 47.9%     | 52.6%     | 48.0%     |
| 40～49歳 | 55.0%    | 52.3%    | 56.3%     | 43.1%     | 44.8%     | 46.3%     | 37.1%     |
| 50歳以上  | 54.1%    | 57.3%    | 56.1%     | 52.2%     | 50.2%     | 48.1%     | 41.8%     |

資料：社団法人日本観光協会「平成23年度版 観光の実態と志向」

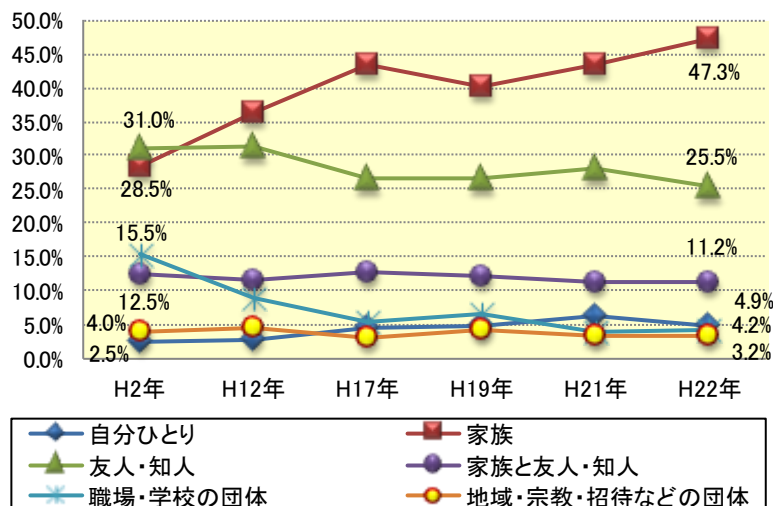
## (2) 旅行形態等の変化

観光旅行における同行者の推移をみると、「職場・学校の団体」はその割合を落とし続けている一方、「家族」が増えてきており、7割以上が「家族」及び「友人・知人」などの小団体の旅行となっています。さらに「自分ひとり」といった一人旅も着実に増えており、旅行の小団体化が進んでいます。

このことは、一つに自家用車の普及が大きく影響していると考えられます。また、高速道路網等の交通基盤整備が全国的に進んだことにより、観光地へのアクセス性が向上したことも背景として考えられます。社団法人日本観光協会の調査によると、観光旅行における利用交通機関については、自家用車が5割を超えています。

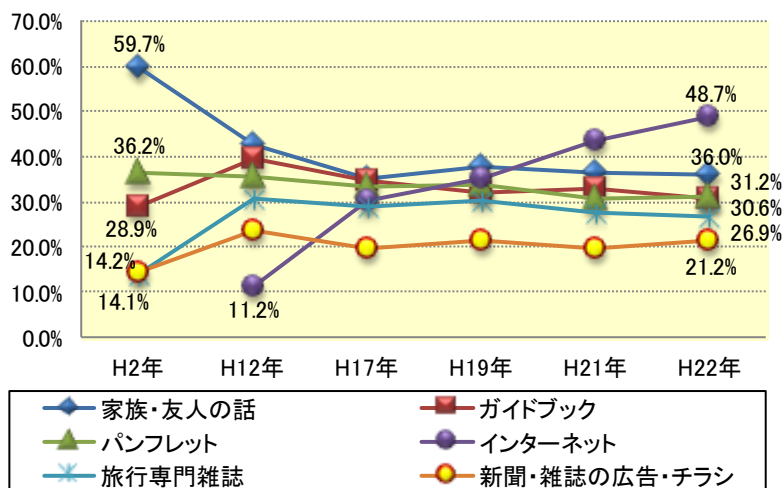
また、インターネットの普及も大きく影響しています。同調査によると、宿泊観光旅行に出かける前に参考にするものとして、インターネットの割合が急激に増えており、最も重要な情報収集手段となっています。なかでもインターネットの書込情報を参考にしている割合が高い傾向にあり、情報収集手段は異なっても、口コミ情報を重要視していることがうかがえます。さらには、インターネットを通じて宿泊やチケット、観光施設の予約など、旅行に必要な手配が個人でも容易にできるようになったため、情報を収集し自分に合った旅行計画を立て、観光商品を手配するなど、旅行への自由度が格段に向上したこともあげられます。

宿泊観光の同行者(15歳以上)の推移



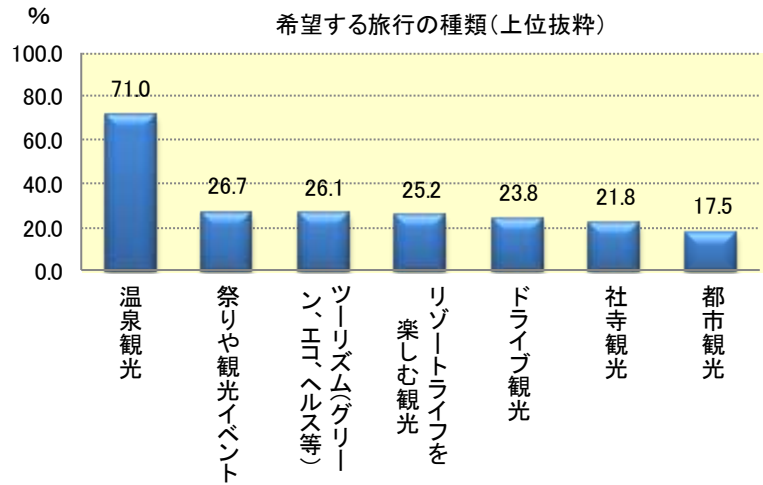
資料：社団法人日本観光協会「平成23年度版 観光の実態と志向」

宿泊観光旅行に出かける前に参考にするもの(上位抜粋)



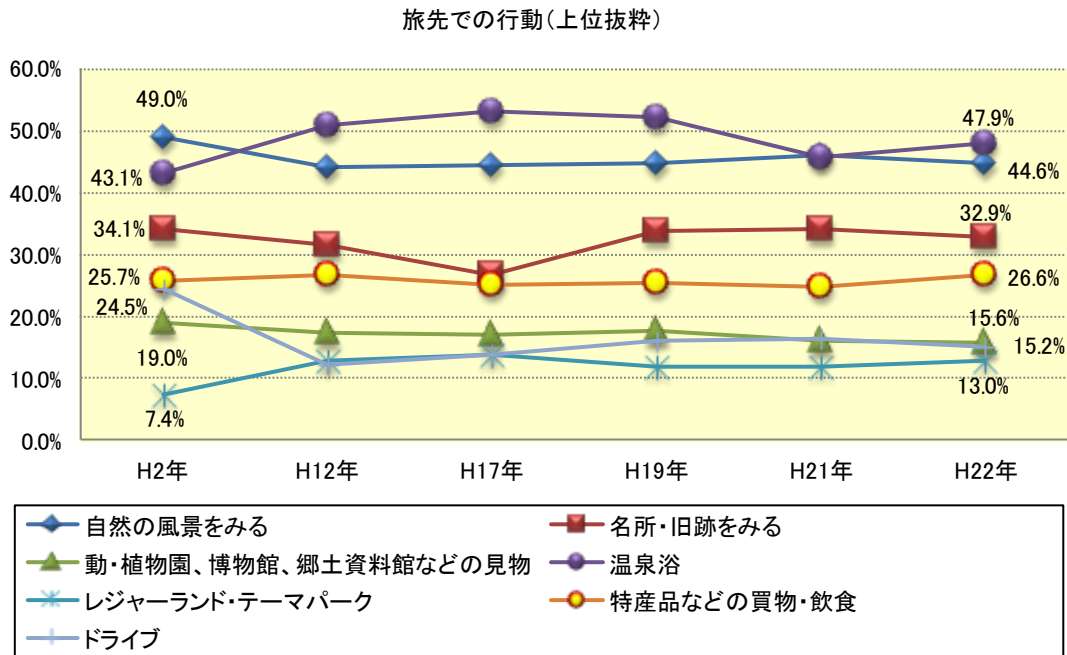
資料：社団法人日本観光協会「平成23年度版 観光の実態と志向」

希望する旅行の種類については、「温泉観光」を筆頭に、「祭りや観光イベント」や「ツーリズム※(グリーン、エコ、フィルム、フラワー、ヘルス等)」「リゾートライフを楽しむ観光」がニーズとして高くなっています。実際の旅先での行動をみると、順位に変動はあるものの、「自然の風景をみる」「温泉浴」「名所・旧跡をみる」「特産品などの買物・飲食」が上位4位を占めていることから、旅行では癒しやその土地ならではの体験を求めていることがうかがえます。



資料：社団法人日本観光協会「平成23年度版 観光の実態と志向」

※ツーリズム：観光事業。旅行業。また、観光旅行を意味するが、近年、観光分野で用いられる場合、かつての物見遊山的な観光ではなく、体験型観光を意味する場合に用いられる。



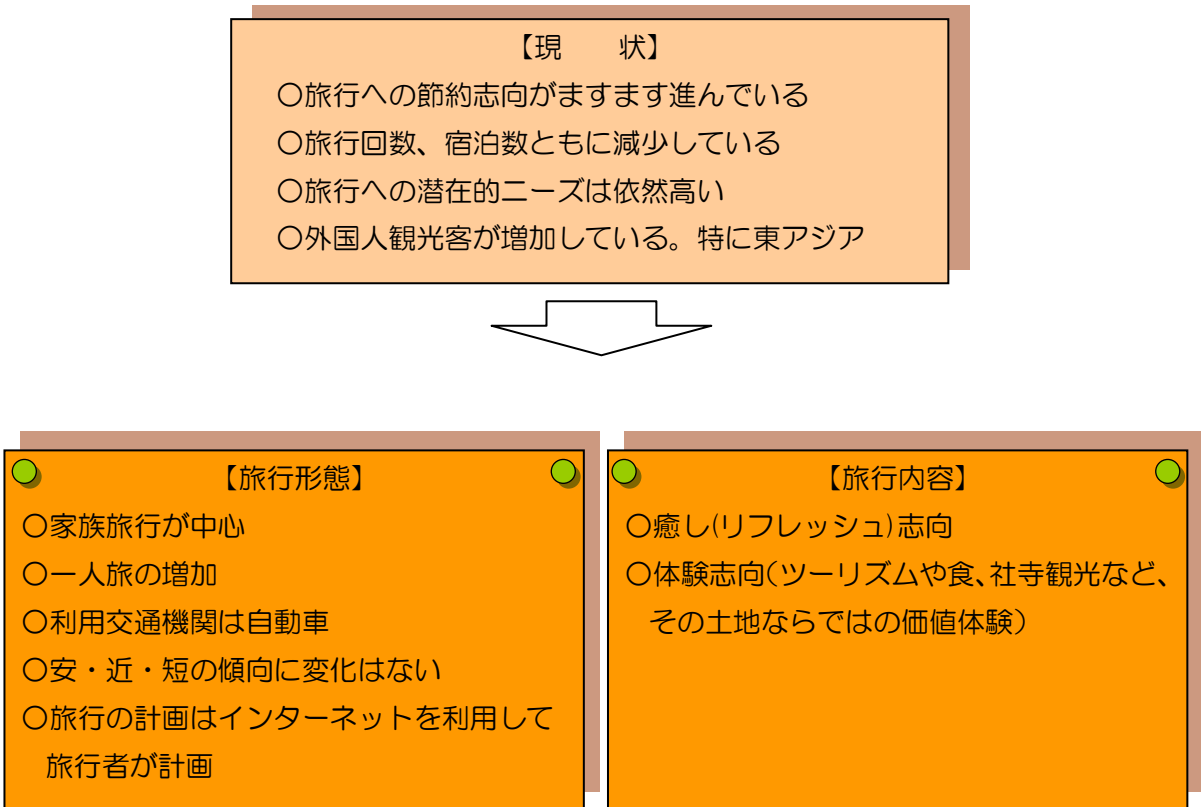
資料：社団法人日本観光協会「平成23年度版 観光の実態と志向」

国内観光旅行の傾向としては、長引く景気停滞により資金や時間的な余裕が乏しくなる中、費用を抑えるための工夫をしつつ、「癒し（リフレッシュ）」と「その土地ならではの価値体験」に重点を置いた観光旅行を行っています。

旅行の形態としては、従来からの「安・近・短」の傾向に変化はありませんが、旅行計画時におけるインターネットの役割が非常に大きくなっています。また、家族で旅行する割合が増加しており、旅行の小団体化が進んでいます。

旅行の内容としては、温泉に代表される「癒し（リフレッシュ）」を中心に、ツーリズム（グリーン、エコ、フィルム、フラワー、ヘルス）や食、社寺観光など、その土地でしか得られない「価値体験」を伴う内容への傾向がみられます。

## ■ 国内観光旅行の動向



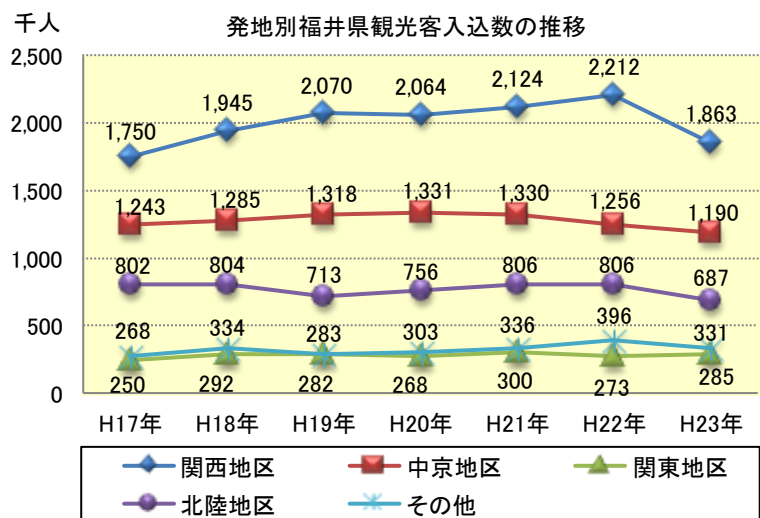
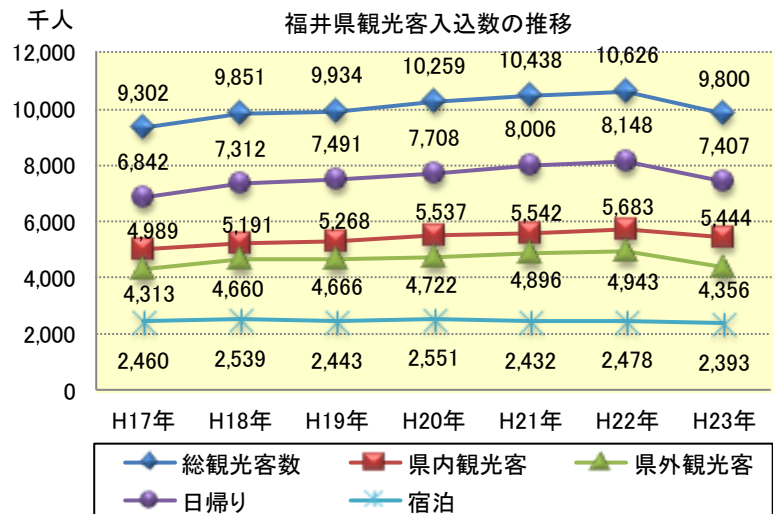
## 2 県内広域圏における観光旅行の動向

### (1) 福井県における観光入込客の動向

福井県観光客入込数の推移をみると、「総観光客数」については右肩上がりとなっており、平成20年には1,000万人の大台に達したものの、平成23年は東日本大震災による旅行自粛により980万人に減少しています。

発地別にみると、関西地区からの入込が4割以上を占め最も多く、さらに平成18年を境に入込客数が大きく増加しています。このことは特に、平成18年10月にJR湖西線・北陸本線が直流化し、関西方面からの快速電車が敦賀まで乗り入れされたこと、さらには、平成19年にNHK連続テレビ小説「ちりとてちん」の放映など、観光客入込数が増加する要因が多くあったことが観光客の誘因に寄与していると考えられます。しかし、平成23年については、東日本大震災の影響や舞鶴若狭自動車道の無料化実験終了の影響などにより、関西方面からの入込が大きく減少しています。

観光入込客の内訳をみると、平成23年の日帰り客は全体の約75%を占め、20年前より約15ポイント増加しています。交通アクセスが向上したことにより、観光客の日帰り化が促進されたことがうかがえます。



資料：福井県

一方、観光消費額の推移をみると、観光客入込数の増加に伴い、全体額についても平成18年以降800億円台で推移していましたが、平成23年は794億円に落ち込んでいます。消費額の内訳をみると、圧倒的に「県外客」が高く7割以上を占めています。さらに、一人当たりの消費単価も日帰り、宿泊にかかわらず「県内客」よりも「県外客」の方が高くなっています。このことから、経済効果の面からも観光振興を図る上で県外客は重要なターゲットとなることがかがえます。

このように福井県全体の傾向としては、平成18年のJR直流化など、観光への好材料を背景に観光客入込数は右肩上がりがありますが、実態としては通過型の観光が多いことがみられ、滞在時間の延伸を図ることが課題となっています。

### ■ 観光消費額の推移

|         |         | 平成<br>17年 | 平成<br>18年 | 平成<br>19年 | 平成<br>20年 | 平成<br>21年 | 平成<br>22年 | 平成<br>23年 | 伸び率<br>H17-H23 |
|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------------|
| 全体額(億円) |         | 791       | 825       | 809       | 840       | 824       | 840       | 794       | 100.4%         |
| 県内客     | 日帰り(億円) | 90        | 93        | 96        | 102       | 103       | 107       | 103       | 114.4%         |
|         | 宿泊(億円)  | 155       | 161       | 148       | 150       | 134       | 128       | 115       | 74.2%          |
| 県外客     | 日帰り(億円) | 112       | 125       | 127       | 125       | 134       | 133       | 109       | 97.3%          |
|         | 宿泊(億円)  | 434       | 446       | 438       | 463       | 453       | 472       | 467       | 107.6%         |
| 日帰り(億円) |         | 202       | 218       | 223       | 227       | 237       | 240       | 212       | 105.0%         |
| 宿泊(億円)  |         | 589       | 607       | 586       | 613       | 587       | 600       | 582       | 98.8%          |

### ■ 観光消費額の割合の推移

|     |     | 平成<br>17年 | 平成<br>18年 | 平成<br>19年 | 平成<br>20年 | 平成<br>21年 | 平成<br>22年 | 平成<br>23年 |
|-----|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 県内客 | 日帰り | 11.4%     | 11.3%     | 11.9%     | 12.1%     | 12.5%     | 12.7%     | 13.0%     |
|     | 宿泊  | 19.6%     | 19.5%     | 18.3%     | 17.9%     | 16.3%     | 15.2%     | 14.5%     |
| 県外客 | 日帰り | 14.2%     | 15.2%     | 15.7%     | 14.9%     | 16.3%     | 15.8%     | 13.7%     |
|     | 宿泊  | 54.9%     | 54.1%     | 54.1%     | 55.1%     | 55.0%     | 56.2%     | 58.8%     |

資料：福井県

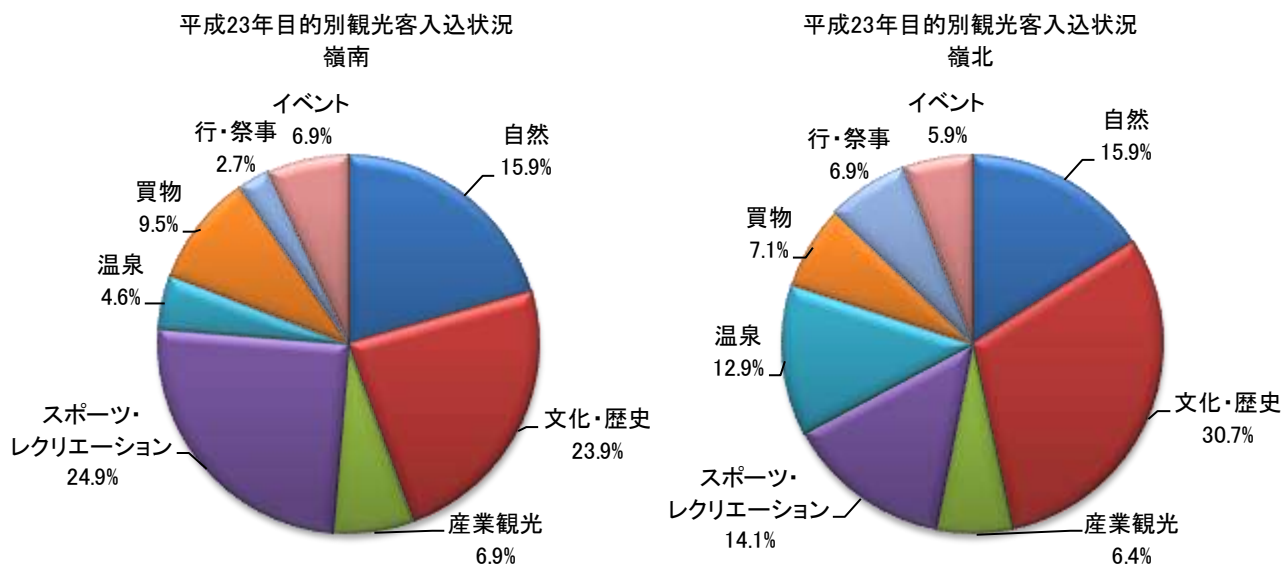


## (2) 嶺南地域における観光入込客の動向

敦賀市を含む嶺南地域の観光客入込数は、県全体の3割を占めており、その推移をみると、平成18年に大きく伸び、以降増加傾向が続いていましたが平成23年に大きく減少しており、福井県全体の観光客入込数と同様の傾向を示しています。

季節別に観光客入込数をみると、嶺南地域は「夏」が約4割と最も多く、次いで「秋」となっています。しかし、嶺北地域では「夏」が最も多いのは同様ですが、「春」が次いで多くなっています。また、観光客の入込状況を目的別にみると、嶺南地域は「スポーツ・レクリエーション」をはじめ、「自然」「歴史・文化」が中心となっているのに対し、嶺北地域は「歴史・文化」を筆頭に、「温泉」や「スポーツ・レクリエーション」など、多様な目的に分散している傾向がみられます。これらは嶺南地域が、豊富な海産物や海水浴場、若狭湾沿岸をはじめとする美しい自然景観に恵まれていることが要因と考えられます。

これらのことから、嶺南地域における観光スタイルとしては、夏を中心に秋の紅葉シーズンにかけて、美しい自然とそこでのスポーツやレクリエーションで遊びながら、食をはじめとする文化や歴史を体感する観光が中心であることがうかがえます。



資料：福井県

■ 嶺北・嶺南地域別観光客入込数の推移（季節別）

単位：千人

|              |     | 平成<br>17年       | 平成<br>18年       | 平成<br>19年       | 平成<br>20年       | 平成<br>21年       | 平成<br>22年       | 平成<br>23年       |
|--------------|-----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 年間合計         | 県合計 | 22,167          | 23,593          | 23,751          | 24,400          | 24,945          | 25,342          | 23,108          |
|              | 嶺北  | 15,722<br>70.9% | 16,466<br>69.8% | 16,457<br>69.3% | 16,737<br>68.6% | 17,303<br>69.4% | 17,850<br>70.4% | 16,251<br>70.3% |
|              | 嶺南  | 6,445<br>29.1%  | 7,127<br>30.2%  | 7,294<br>30.7%  | 7,663<br>31.4%  | 7,642<br>30.6%  | 7,492<br>29.6%  | 6,857<br>29.7%  |
| 春<br>(3～5月)  | 県合計 | 5,671           | 5,882           | 6,072           | 6,445           | 6,607           | 6,652           | 5,892           |
|              | 嶺北  | 4,344<br>27.6%  | 4,549<br>27.6%  | 4,667<br>28.4%  | 4,852<br>29.0%  | 5,014<br>29.0%  | 5,165<br>28.9%  | 4,565<br>28.1%  |
|              | 嶺南  | 1,327<br>20.6%  | 1,333<br>18.7%  | 1,405<br>19.3%  | 1,593<br>20.8%  | 1,593<br>20.8%  | 1,487<br>19.8%  | 1,327<br>19.4%  |
| 夏<br>(6～8月)  | 県合計 | 7,559           | 8,289           | 7,775           | 8,154           | 8,184           | 8,611           | 7,809           |
|              | 嶺北  | 4,896<br>31.1%  | 5,367<br>32.6%  | 4,992<br>30.3%  | 5,067<br>30.3%  | 5,236<br>30.3%  | 5,496<br>30.8%  | 4,987<br>30.7%  |
|              | 嶺南  | 2,663<br>41.3%  | 2,922<br>41.0%  | 2,783<br>38.2%  | 3,087<br>40.3%  | 2,948<br>38.6%  | 3,115<br>41.6%  | 2,822<br>41.2%  |
| 秋<br>(9～11月) | 県合計 | 5,954           | 6,219           | 6,358           | 6,316           | 6,805           | 6,712           | 6,233           |
|              | 嶺北  | 4,207<br>26.8%  | 4,178<br>25.4%  | 4,284<br>26.0%  | 4,272<br>25.5%  | 4,648<br>26.9%  | 4,736<br>26.5%  | 4,359<br>26.8%  |
|              | 嶺南  | 1,747<br>27.1%  | 2,041<br>28.6%  | 2,074<br>28.4%  | 2,044<br>26.7%  | 2,157<br>28.2%  | 1,976<br>26.4%  | 1,874<br>27.3%  |
| 冬<br>(12～2月) | 県合計 | 2,983           | 3,203           | 3,546           | 3,485           | 3,349           | 3,367           | 3,174           |
|              | 嶺北  | 2,275<br>14.5%  | 2,372<br>14.4%  | 2,514<br>15.3%  | 2,546<br>15.2%  | 2,405<br>13.9%  | 2,453<br>13.7%  | 2,340<br>14.4%  |
|              | 嶺南  | 708<br>11.0%    | 831<br>11.7%    | 1,032<br>14.1%  | 939<br>12.3%    | 944<br>12.4%    | 914<br>12.2%    | 834<br>12.2%    |

資料：福井県

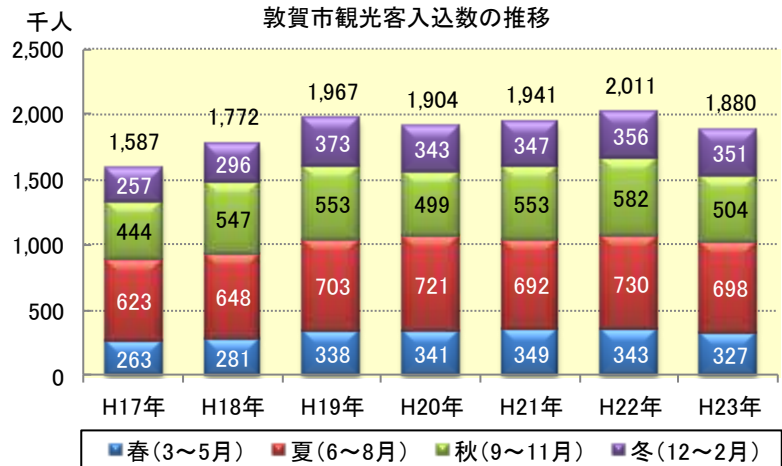
## 第2節 敦賀市における観光の状況

### 1 敦賀市の観光入込客の動向

#### (1) 観光入込客の動向

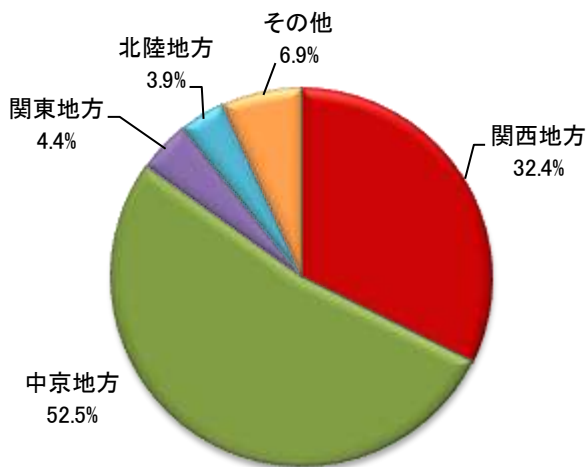
本市の観光客入込数は平成22年に約201万人を記録したものの、平成23年は福井県や嶺南地域と同様、減少に転じています。細かくみると、平成17年から平成19年にかけての増加が大きく、JR直流通を契機とした各種PR活動や環境整備等の効果が大きく出ていると考えられます。しかし、平成19年から平成22年にかけては微増となっていることから、平成20年に発生した世界同時不況の影響がみられます。

県外客の発地別構成割合をみると、関西及び中京方面が中心である傾向に変化はみられませんが、関西方面の占める割合が高まっています。

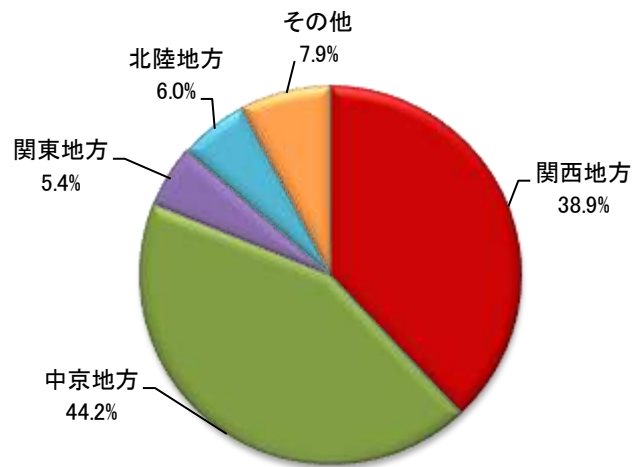


資料：福井県

県外客の発地別構成割合(平成17年)

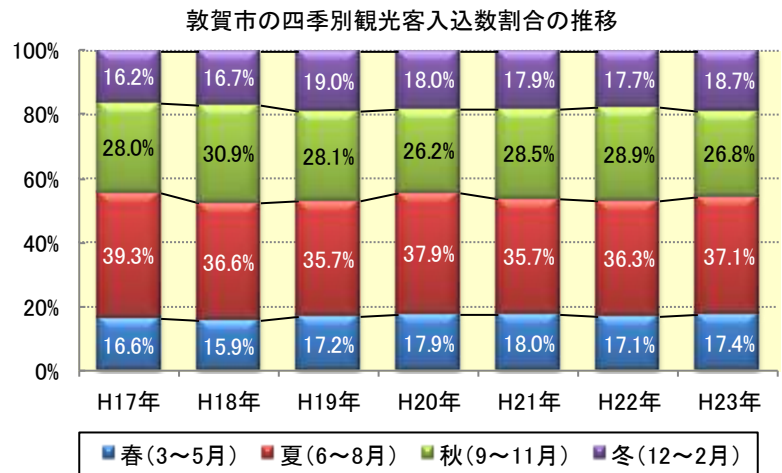


県外客の発地別構成割合(平成23年)



資料：敦賀市観光振興課

季節別に観光客の入込状況をみると、本市は「夏」と「秋」が中心となっています。一方、これまで比較的閑散期であった「春」「冬」についても、平成17年から平成19年にかけてJR直流化を契機とした四季折々のイベントや通年イベント等の整備により増加がみられます。また、入込数を目的別にみると、「文化・歴史」を筆頭に、「スポーツ・レクリエーション」や「イベント」「産業観光」が中心となっており、県内他地域と比べ、特に「産業観光」が多いといった特徴もみられます。これは、港湾都市、さらには原子力発電所等が立地するエネルギー都市として発展してきた歴史的な背景が要因として考えられます。また、平成23年については市への観光客入込数全体が減少する中、大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映効果やそれに合わせたPRなどにより「文化・歴史」を目的とした入込数が増加しています。



■ 目的別観光客入込数（延人数）の推移

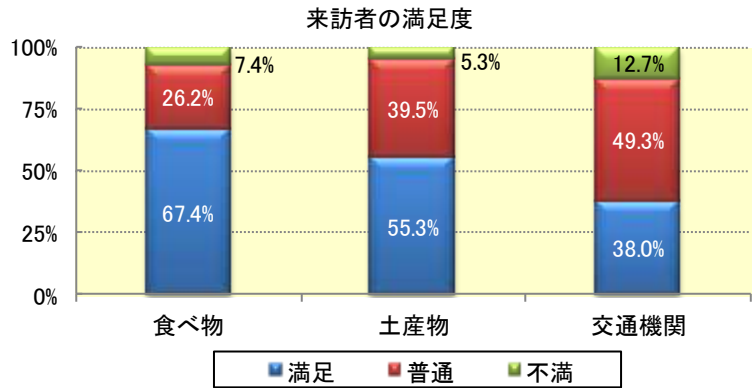
（単位：千人）

|               | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 伸び率<br>H17-H23 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 自然            | 59    | 63    | 80    | 63    | 78    | 83    | 85    | 144.1%         |
| 文化・歴史         | 615   | 737   | 810   | 781   | 796   | 776   | 810   | 131.7%         |
| 産業観光          | 223   | 124   | 261   | 263   | 273   | 282   | 237   | 106.3%         |
| スポーツ・レクリエーション | 223   | 293   | 283   | 305   | 249   | 299   | 278   | 124.7%         |
| 温泉            | 110   | 122   | 119   | 111   | 118   | 119   | 106   | 96.4%          |
| 買物            | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | —              |
| 行・祭事          | 151   | 153   | 164   | 123   | 165   | 168   | 75    | 49.7%          |
| イベント          | 206   | 280   | 250   | 258   | 262   | 284   | 289   | 140.3%         |
| 合計            | 1,587 | 1,772 | 1,967 | 1,904 | 1,941 | 2,011 | 1,880 | 118.5%         |

資料：福井県

これらのことから、本市における観光スタイルとしては、夏を中心に秋の紅葉シーズンにかけて、歴史や文化施設、食などを体感する一方で、海水浴等のスポーツやレクリエーションに訪れる観光が中心となっていることがうかがえます。

一方、観光地としての来訪者の満足度をみると、「食べ物」や「土産物」は、満足及び普通が9割をこえるのに対し、「交通機関」については8割台と若干の差が出ています。「交通機関」については、JR新快速電車の乗り入れや、ぐるっと敦賀周遊バスを運行するなど、交通アクセスの向上を図っていますが、さらなる改善が必要であると言えます。



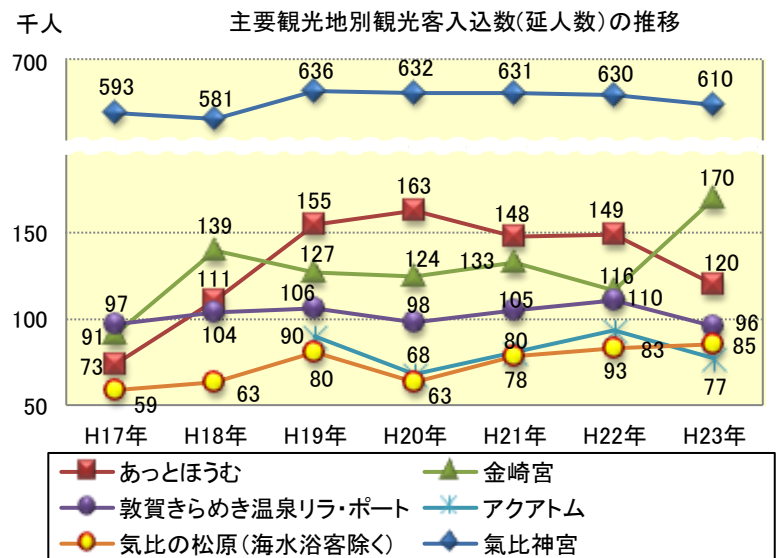
資料：JR直流化まちづくり対策調査報告書

## (2) 主要観光地別観光入込客の動向

主要観光地別観光客入込数の動向をみると、「氣比神宮」が61万人と最も多く、福井県下の中でも上位5位に位置し、本市の重要な観光資源となっています。

また、「氣比神宮」「金崎宮」「氣比の松原」「あっとほうむ」などの文化・歴史、自然、エネルギー関連の資源については平成18年よりも入込数が伸びており、集客力が高いことを示しています。

平成23年は、東日本大震災の影響から市内観光地の多くが入込数を落としている中、大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映に合わせたPR効果などもあり、ゆかりの地となった「金崎宮」は観光客入込数が大きく増加しています。



資料：福井県

敦賀市における観光入込客の動向をまとめると、以下の通りとなります。前回計画時との相違点については、関西方面からの入込が増えたこと、また、来訪目的がマリンレジャーだけでなく、「文化・歴史」や「産業観光」「イベント」など多様化している傾向がみられます。

一方、夏季中心の日帰り型観光地である形態に変化はみられず、通年型観光を目指すにあたっては課題がみられます。

#### ■敦賀市の観光入込客の特徴

| 項目     | 内容   |
|--------|--|
| 入込数の推移 | ○JR直流化などの好材料を背景に増加傾向<br>(平成23年で188万人、平成17年と比べて約1.2倍)   |
| 観光目的   | ○「文化・歴史(43.1%)」を中心に、「イベント(15.4%)」「スポーツ・レクリエーション(14.8%)」「産業観光(12.6%)」など多様化<br>○文化・歴史資源では氣比神宮への観光客入込が市内で最も多い<br>(平成23年で61万人) |
| 入込時期   | ○夏季(37.1%)・秋季(26.8%)で年間の6割の観光客が来訪  |
| 発地     | ○関西・中京方面中心   |

## 2 地域資源の状況

### (1) 敦賀市の交通体系

本市は古くから、畿内と北陸を結ぶ北国街道が通る交通の要衝として発展してきました。また、立地条件等から、西日本国土軸と日本海国土軸をつなぐ重要なポイントに位置しており、京阪神大都市圏及び中部大都市圏と環日本海地域（日本海側の地域）への交通の結節点ともなっています。

これらの好条件を背景に、鉄道の面では、J R北陸本線、湖西線、小浜線がJ R敦賀駅に乗り入れており、京阪神及び中京の大都市地域や丹後・山陰地域と北陸地域を結ぶ交通結節拠点となっています。また、平成18年10月には、大阪・京都方面から敦賀までのJ R北陸本線・湖西線直流化に伴い、新快速電車の直接乗り入れが可能になり、京阪神大都市地域とのつながりが一段と強化されました。道路の面においても、北陸自動車道や国道8号といった大阪・京都方面や名古屋方面と北陸方面を連絡する広域道路網が整備されています。また、海路については北海道（苫小牧）までのフェリー定期航路が運行しています。

広域交通網については、現在、舞鶴若狭自動車道の整備が進行中であり、平成26年度には敦賀まで延伸され、全線開通予定となっています。また、敦賀港については、平成23年11月に「国際フェリー・国際RORO船※」の分野で日本海側拠点港に選定されており、将来的には新航路の就航により、対岸諸国へのゲートウェイ※として、より一層の役割が期待されています。さらに、北陸新幹線金沢敦賀間の平成37年度開業が決定されるなど、今後、本市では広域交通網の変革が進むため、敦賀への一層の交通アクセスの向上と交流機会の拡大が期待できる状況となっています。

一方、市内における公共交通網として、広域路線バス2路線をはじめ、J R敦賀駅を発着とするコミュニティバス※14路線を運行しています。また、平成18年10月のJ R直流化以降、市内の観光地を巡る周遊バス「ぐるっと敦賀周遊バス」を運行しており、市内観光地への二次アクセス※として観光客の周遊性向上の要となっています。

※RORO船：輸送船の種類の一つで、船の中にトラックやトレーラー等が自走して乗り込み、貨物の積み降ろしを行う輸送船。

※ゲートウェイ：出入口、玄関。

※コミュニティバス：交通不便地域の解消、地域住民の利便性の向上を目指して、地域のニーズに応じてサービスを工夫したバス運行システム。

※二次アクセス：二次交通とも言い、空港や鉄道の駅、港などの交通拠点から観光目的地までの交通のことを指す。

## (2) 敦賀市の主要な観光資源




本市の主要な観光資源は、港まちとしての発展を背景とした歴史・文化資源と、嶺南地域特有の自然・景観資源など、見る部分の多い資源が中心となっています。

一方、本市では近年の観光客のニーズに対応すべく、平成18年度より(社)敦賀観光協会において敦賀の自然、文化、産業等を活用した体験型観光メニューを提供する「遊敦塾」を実施しています。




近年、全国的に工場見学などを中心とした産業観光への需要が高まっています。特に工場見学については、その希少性もさることながら、従来の「見る」だけでなく、「ガイド」や「お土産」、中には「試飲・試食」といった付加価値があることも人気の一つとなっています。

そのため、見る+αの価値(例えば、誰もが持つ知識欲や好奇心を視点に、「ガイド」や「体験」をつけるなど)により、観光資源の魅力を高めていくことが今後も必要となります。



### ■神社・仏閣

| 名 称  | 概 況   |
|------|---|
| 氣比神宮 |  <p>敦賀市民から「けいさん」の愛称で親しまれる氣比(けひ)神宮、ご祭神には仲哀天皇他七柱が奉られています。高さ約11mの大鳥居(重要文化財)は日本三大木造大鳥居の一つとなっています。</p> |
| 清明神社 |  <p>平安時代に活躍した陰陽師・安倍晴明にちなむといわれる神社です。拝殿には陰陽道の研究に使ったと伝えられている「祈念石」が鎮座しています。</p>                      |
| 永賞寺  | <p>戦国武将で越前敦賀城主「大谷吉継」ゆかりの寺で、境内には吉継の供養塔と伝えられる市の指定文化財、九重塔があります。</p>  |
| 白銀神社 | <p>戦前、敦賀市の駅前一带は頻繁に火災に見舞われたため、「火伏せの神(火之迦具土神)」と「水神(金光白龍大神)」をあわせて祀った神社です。</p>  |
| 金崎宮  |  <p>明治23年(1890)に創建され、南北朝の騒乱の中で命を落とした尊良・恒良の両親王を祀っています。春には「千本桜」が咲き乱れる桜の名所です。</p>                   |





| 名 称     | 概 況   |
|---------|---|
| 柴田氏庭園   |  <p>江戸時代の敦賀の豪農・柴田権右衛門の邸宅とその庭園で、武家調の屋敷地割を持ち、野坂山を借景に取り入れた庭園は、昭和8年(1933)に国の名勝に指定されています。</p>             |
| 西福寺書院庭園 |  <p>正平23年(1368)、良如上人が開いた浄土宗鎮西派の中本山です。特に紅葉のころが美しく、浄土宗では北陸きっての名刹です。また、御影道・阿弥陀堂などは国の重要文化財に指定されています。</p> |
| 常宮神社    |  <p>地元では「お産のじょうぐうさん」と呼ばれ親しまれている神社です。この神社は大谷吉継ゆかりの国宝『朝鮮鐘』が奉納されていることでも有名です。</p>                        |

#### ■歴史散策

| 名 称          | 概 況  |
|--------------|--|
| 松尾芭蕉像(氣比神宮内) | 元禄2年(1689)に「おくの細道」の旅で敦賀を訪れた松尾芭蕉が氣比神宮に参り「月清し遊行の持てる砂の上」と詠んだことが由来です。  |
| 朝鮮鐘(常宮神社内)   | 渡来した鐘のうち、年号が刻まれているものでは国内最古のもので、銘文では太和7年(833)に新羅の国で作られたものです。朝鮮の役により持ち帰られた鐘を豊臣秀吉の命により大谷吉継が常宮神社に奉納したと伝えられています。  |
| 金ヶ崎古戦場       |  <p>戦国時代の元亀元年(1570)4月、朝倉義景討伐のために出兵した織田信長が北近江の浅井氏の裏切りにより窮地に陥った戦場跡です。</p>               |
| 玄蕃尾城         |  <p>天正11年(1583)の「賤ヶ岳の戦い」の際、柴田勝家が本陣を置いたといわれています。遺構もほぼ完全に残っており、当時の城郭技術を計り知ることができます。</p> |
| 武田耕雲齋等墓      | 元治元年(1864)尊皇攘夷の旗を掲げ、京を目指した武田耕雲齋を総大将とする天狗党一行は、敦賀で幕府軍に投降しました。処刑されたこの土地に墓が建てられ、国の史跡に指定されました。  |

■港まち敦賀




| 名 称                 | 概 況   |  |
|---------------------|---|--|
| 赤レンガ倉庫              |    | <p>福井県内でも有数のレンガ建築物で、外国人技師の設計によって明治 38 年(1905)に建てられ、戦後は昆布貯蔵庫として使用されていました。港まち敦賀の象徴的建築物のひとつで、国の登録有形文化財です。</p> |
| ランプ小屋               |    | <p>明治 15 年(1881)金ヶ崎駅(後の敦賀港駅)の鉄道用ランプや油類を保管する倉庫として建設されました。明治時代の港の面影を今に伝える現存最古のレンガ造りのランプ小屋です。</p>             |
| 旧敦賀港駅舎<br>(敦賀鉄道資料館) |    | <p>「欧亜国際連絡列車」の発着駅であった敦賀港駅舎を金ヶ崎緑地に再現しました。館内では敦賀の鉄道の歴史を紹介したパネルや貴重な鉄道資料を展示しています。</p>                          |
| 敦賀ムゼウム              |   | <p>第二次大戦中、ナチスの迫害から逃れようとしたポーランド系ユダヤ人が日本通過ビザを手にはじめて踏みしめた地であったことを記念した施設です。</p>                                |
| 洲崎の高灯籠              |  | <p>敦賀で海運業を営んでいた庄山清兵衛が享和 2 年(1802)に笹の川河口に建てた日本海側に現存する最古の和式灯台です。</p>   |
| 市立博物館(旧大和田銀行本店建物)   |  | <p>大和田荘七が創設した大和田銀行の 2 代目本店として、昭和 2 年(1927)に竣工しました。県の有形文化財に指定されており、敦賀市立博物館として活用されています。</p>                  |
| みなとつるが山車会館          |  | <p>敦賀まつりで巡行する勇壮華麗な山車 6 基のうち 3 基を展示している施設です。スクリーンシアターでは活気あるまつりの様子を映しています。</p>                               |
| 紙わらべ資料館             | <p>敦賀市在住の和紙人形作家高木栄子さんの創作紙わらべ人形を展示する資料館です。昭和 10 年代頃に見られた「ふるさとの原風景」がここにあります。</p>      |  |

| 名 称                                | 概 況   |
|------------------------------------|---|
| 「銀河鉄道 999」<br>「宇宙戦艦ヤマト」<br>モニュメント像 |  <p>かつて欧州への旅路の序章となった「欧亜国際連絡列車」が走った港と鉄道のまち敦賀、1999年に敦賀開港100周年を記念して「銀河鉄道999」と「宇宙戦艦ヤマト」のモニュメントを敦賀駅から氣比神宮までのシンボルロードに設置しました。</p> |
| 立石岬灯台                              |  <p>明治14年(1881)に初めて日本人のみの設計により造られた洋式灯台です。そのレトロな佇まいは、国際港敦賀の歴史を象徴しています。</p>  |

### ■敦賀の自然

| 名 称   | 概 況   |
|-------|---|
| 氣比の松原 |  <p>古くは氣比神宮の神苑であり、明治時代に国有林となりました。約17,000本の松が生い茂る日本三大松原の一つで、白砂と青松のコントラストが印象的な国の名勝地です。</p>                    |
| 水島    |  <p>敦賀半島の先端近くに浮かぶ小さな無人島で、海水の透明度が高く、美しいことから毎年大勢の海水浴客が訪れます。</p>  |
| 池河内湿原 |  <p>昭和40年(1965)に県の自然環境保全地域に指定された湿原で、周囲を低山群に囲まれているため、周辺からの湧き水などにより潤されています。</p>                              |
| 中池見湿地 |  <p>3つの低山に囲まれた面積約25ヘクタールの内陸低湿地で、特有の植物が群落をつくり、様々な水生昆虫が生息しています。平成24年(2012)7月にはラムサール条約湿地に認定されました。</p>         |
| 木ノ芽峠  |  <p>敦賀市と南越前町の境にある峠で、『日本紀略』によれば、その歴史は天長7年(830)まで遡ります。近畿から北陸へ入るためにはこの峠を越えなければならず、道元、新田義貞、蓮如らも通ったとされています。</p> |
| 足田舟川  |  <p>江戸時代末期、敦賀港に集まった荷を川舟を利用して運ぶため、峠越えの手前の足田まで整備された運河です。現在、江戸時代の面影をイメージした景観形成がなされています。</p>                   |

■施設・プレイスポット

| 名 称                  | 概 況   |  |
|----------------------|---|--|
| 金ヶ崎緑地                |                          | <p>敦賀の港の雰囲気が楽しめる緑地スペースで、ボードウォークで潮風にあたりながら港を散歩できる湾岸沿いの空間です。市民の憩いの場所になっています。</p>               |
| ニューサンピア敦賀<br>アイスアリーナ | <p>北陸唯一の日本スケート連盟公式スケートリンクで、春・夏には氷を取り除いたリンクに人工芝を敷き詰め、多目的ホールとして利用されています。</p>                                |  |
| 敦賀市立総合運動公園           | <p>総面積 32 万 7000 m<sup>2</sup>の敷地を有する総合運動公園です。本格的な運動施設をはじめ、家族ぐるみでも楽しめるレクリエーション施設、やすらぎと憩いの修景施設などがあります。</p> |  |
| みかん園                 | <p>敦賀市の北東部、敦賀湾に面した東浦地区では、温州みかんが江戸時代から栽培されています。海沿いの南側斜面に広がるみかん園では秋にみかん狩りが楽しめます。</p>                        |  |
| こどもの国                | <p>広い芝生に、プラネタリウム、また、併設の建物には陶芸教室などが行われている子どもたちのワンダーランドです。家族で一日中楽しめる施設です。</p>                               |  |
| 敦賀きらめき温泉<br>リラ・ポート   | <p>リラクゼーションとポート(港)をもとに名づけられたスパリゾート施設です。大浴場や露天風呂で良質な温泉を楽しむほか、レストラン、カラオケボックスなども備えた日帰り温泉施設です。</p>            |  |
| 敦賀トンネル温泉             | <p>北陸トンネル誕生の折に温泉が湧き出したことが名前の由来で、良質な源泉からの湯船につかりつつ名勝気比の松原や市街地、港等が一望できるのが魅力です。</p>                           |  |
| あっとほうむ               |                        | <p>「あっと」驚き、「はっと」気づく体験がいっぱいの電気や原子力等のエネルギーについての体験学習ができる科学館です。館内には電気や原子力発電について学ぶブースがいっぱいです。</p> |
| 敦賀原子力館               |                        | <p>敦賀発電所のしくみや発電所周辺の自然環境について、模型やVTRなどを通じて学べる施設です。</p>   |

イベントや行事は、観光客の誘客に大きな効果が期待されます。本市では、地域に根差した四季折々のイベントや行事を開催しています。「清明の朝市」など、中には、通年でやっているイベントもあります。

## ■イベント

| 名 称          | 概 況  |
|--------------|--|
| 清明の朝市        | 【毎月第3日曜日】<br>敦賀の市場発祥の地、そして陰陽師で知られる安倍清明ゆかりの地でもある相生町、ここで毎月第3日曜日に開かれています。農家からの産直品や地元の名産品が豊富に揃った出店が並びます。 |
| 駅前ふれあい市      | 【4～12月第1日曜日】<br>まちなかのにぎわい創出や商業活性化の弾みとなるよう、敦賀駅前商店街が主催する市民参加型「テント市」です。                                 |
| 敦賀西町の綱引き     | 【1月第3日曜日】<br>西町(現在の相生町)の細い通りで夷子と大黒に分かれて大綱を引き、その年の豊漁豊作を占う神事で、国の重要無形民俗文化財です。                           |
| 野坂だのせ祭り      | 【2月中旬】<br>男衆が「だのせのせのやー」と合の手を入れながら太鼓を打ち鳴らし、田を耕す姿を表現する予祝芸能です。県の無形民俗文化財です。                              |
| 花換まつり        | 【4月上旬】<br>桜の開花時期、金崎宮で行われます。参拝客同士が、手に持った桜の小枝を交換し合い、幸せを願う祭りです。   |
| 白銀神社の火祭り     | 【5月上旬】<br>防火を祈願する祭で、夜、白銀町の住民や大勢の参加者がたいまつを片手に、駅前通を練り歩き、防火を呼びかけます。                                     |
| 御田植祭         | 【6月15日】<br>早乙女らが、田植え歌を唄い、氣比神宮の境内に設けた神田に苗を並べて、その年の豊作を祈願します。   |
| 総参祭          | 【7月22日】<br>氣比神宮の仲哀天皇と常宮神社の神功皇后の御祭神が年に1度のデートを楽しむと伝えられる、ロマンチックな祭りです。                                   |
| とうろう流しと大花火大会 | 【8月16日】<br>名勝氣比の松原で行われる夏の一大イベントで、六千個のとうろうと花火が海と夜空を美しく彩ります。   |

| 名 称          | 概 況   |
|--------------|---|
| 氣比神宮例祭・敦賀まつり | 【9月2日～15日】<br>「けいさん祭り」とも呼ばれ、14日間にわたって行われる北陸一の長祭です。2日から4日は敦賀まつりも開催されます。                |
| 相撲甚句         | 【9月中旬】<br>阿曾の利棧神社の例大祭で行われます。奉納相撲の中入にあわせて10人の力士役が土俵内を踊ります。県の無形民俗文化財です。                 |
| 赤崎の獅子舞       | 【9月中旬】<br>赤崎の八幡神社で行われる獅子舞で、県の無形民俗文化財です。さまざまな舞いを見せてくれます。                               |
| 松原神社例大祭      | 【10月10日】<br>尊皇攘夷を唱えた水戸天狗党は、幕府軍に敦賀で投降し、処刑されました。首領武田耕雲斎ら天狗党を偲ぶ行事です。                     |
| 御船遊管絃祭       | 【10月20日】<br>金ヶ崎城で戦死した南朝の皇子らを慰めるため、船を敦賀湾に浮かべ、雅楽を奏でたり、踊りを奉納するなどの行事です。                   |
| つるが観光物産フェア   | 【10月中旬】<br>市内、県内はもちろんのこと、国内の友好姉妹都市や近隣市町村などが出展し開催される一大物産フェアです。見て楽しむだけでなく、体験などにも参加できます。 |
| 敦賀マラソン       | 【10月中旬】<br>市内外より約3,000名のランナーが集まり健脚を競うマラソン大会です。市街地から港を回るコースは、港まち敦賀の雰囲気を感じながら走ることができます。 |
| せんべい焼き       | 【11月20日】<br>栄新町の恵美須神社(天満神社境内)のお祭りで、生せんべいを青竹の先にはさみ、焼いて食べ、無病息災を祈願します。                   |
| みやあげ         | 【12月初旬】<br>威勢のよい餅つきで知られる農作感謝の祭です。子どもたちの行列が刀根の氣比神社にお供えを奉納します。市の無形民俗文化財です。              |

### (3) 敦賀市の宿泊施設

本市の宿泊施設は「民宿・ペンション等の民営宿泊施設」が大半を占めています。これは、従来より、海水浴や釣りなどの客層をターゲットに民宿を中心とした宿泊施設がなりたってきた嶺南地域の特性とも言えます。

特に本市の民宿は、原子力発電所作業関係者や海水浴客等が集客の2本柱となっていました。が、海水浴客については本市へのアクセス性が向上したことを背景に日帰り客が増加したため、減少しています。さらに東日本大震災を契機とした国のエネルギー政策の見直しを背景に、原子力発電所作業関係者の宿泊も減少しており、民宿の経営状態は不安定な傾向にあります。民宿については、兼業か専業か、また、専業でも高齢者中心の営業か若者かなど、営業形態によっても差が生じています。中には、ホームページを整備するなど、近年の観光客のスタイルに合わせた環境整備を進めている民宿もみられます。

一方、市街地にはビジネスホテルを中心に旅館やホテルが集積しています。近年、JR敦賀駅周辺には大手ビジネスホテルなども進出しており、ビジネス客のみならず、観光客の宿泊も増えています。

#### ■宿泊施設の一覧（平成23年）

|       | ホテル・旅館 |        | 民宿・ペンション等の民営宿泊施設 |        | ユースホステル |      | 社会教育施設 |       | 公共の宿泊施設 |       | キャンプ場 |       | 合計     |        |
|-------|--------|--------|------------------|--------|---------|------|--------|-------|---------|-------|-------|-------|--------|--------|
|       | 軒数     | 収容人数   | 軒数               | 収容人数   | 軒数      | 収容人数 | 軒数     | 収容人数  | 軒数      | 収容人数  | 軒数    | 収容人数  | 軒数     | 収容人数   |
| 敦賀市   | 6      | 554    | 97               | 3,485  | 0       | 0    | 1      | 120   | 0       | 0     | 1     | 380   | 105    | 4,539  |
|       | 5.7%   | 12.2%  | 92.4%            | 76.8%  | 0.0%    | 0.0% | 1.0%   | 2.6%  | 0.0%    | 0.0%  | 1.0%  | 8.4%  | 100.0% | 100.0% |
| 嶺北地域  | 50     | 8,888  | 277              | 12,861 | 1       | 33   | 7      | 1,364 | 25      | 2,177 | 32    | 6,778 | 392    | 32,101 |
|       | 12.8%  | 27.7%  | 70.7%            | 40.1%  | 0.3%    | 0.1% | 1.8%   | 4.2%  | 6.4%    | 6.8%  | 8.2%  | 21.1% | 100.0% | 100.0% |
| 嶺南地域  | 18     | 1,952  | 533              | 19,099 | 0       | 0    | 4      | 603   | 3       | 298   | 9     | 2,151 | 567    | 24,103 |
|       | 3.2%   | 8.1%   | 94.0%            | 79.2%  | 0.0%    | 0.0% | 0.7%   | 2.5%  | 0.5%    | 1.2%  | 1.6%  | 8.9%  | 100.0% | 100.0% |
| 福井県合計 | 68     | 10,840 | 810              | 31,960 | 1       | 33   | 11     | 1,967 | 28      | 2,475 | 41    | 8,929 | 959    | 56,204 |
|       | 7.1%   | 19.3%  | 84.5%            | 56.9%  | 0.1%    | 0.1% | 1.1%   | 3.5%  | 2.9%    | 4.4%  | 4.3%  | 15.9% | 100.0% | 100.0% |

資料：福井県

## 第3節 敦賀市観光振興計画(平成7年度策定)の進捗状況

平成7年度に策定した「敦賀市観光振興計画」の進捗状況と課題について、計画の基本的な柱ごとに検証します。

### 1 観光振興のソフト施策の展開

#### 【基本的な柱】

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| (1) 計画推進の仕組みづくり | (4) 魅力的なイベントの実施   |
| (2) 受入れ体制の整備    | (5) 地域特性にもとづく商品開発 |
| (3) 情報提供システムの構築 | (6) 関連産業の振興       |

#### (1) 計画推進の仕組みづくり

計画を推進するための体制として、平成14年度に第3セクターの「港都つるが株式会社」を設立し、歴史伝統文化資産活用事業・中心市街地商業活性化事業・中心市街地賑わい創出事業・港都つるがイメージアップ推進事業など、市街地の活性化に取り組むとともに、平成15年度に観光協会を社団法人化し、組織機構の強化を図りました。本市の観光振興については、行政主導により進められてきた背景がありましたが、(社)敦賀観光協会による遊敦塾の運営など、独自の取組も始まっています。

また、民間との協働による推進基盤の構築が徐々に進められていますが、今後は、(社)敦賀観光協会や港都つるが株式会社をはじめ、市内観光事業者との役割分担を明確にし、計画推進のための体制を強化していくことが課題となっています。その観点からもそれぞれが自主運営に向けて組織力の強化や自主財源の確保、各種観光事業者団体との連携強化に取り組んでいくことが必要となっています。

#### (2) 受入れ体制の整備

観光客を受け入れるおもてなしの体制づくりとして、観光ボランティアの育成に取り組むとともに、平成23年度に市内の観光ボランティアグループを一元化し、組織体制の強化を図りました。また、中心市街地活性化に関するフォーラムや市民研修、さらには市民ぐるみによる花いっぱい市民運動を展開するなど、市民を含めた取組を実施してきました。

しかし、観光ボランティアの担い手不足や、市民のおもてなし意識、また、観光事業者等における受入れ体制等、観光都市としてのホスピタリティ\*が成熟していない現状がみられます。



また、全国的にインバウンド※観光が推進される中、本市においても外国語パンフレットの作成や市内の観光案内板への外国語表記など、受け入れの基盤整備に取り組んできました。さらに、平成23年度からは、人道の港として外国人ツアーを誘致するため、イスラエルから国際交流員を配置するなど、インバウンド観光を推進しています。今後、具体的な誘致策の検討や受入れ体制の充実が課題となっています。

※ホスピタリティ：心のこもったもてなし。手厚いもてなし。また、歓待の精神の意味。

※インバウンド：外から中に入ってくることを意味し、観光においては、日本国外から入ってくる旅行者、つまり外国人による日本旅行者を指す。

### (3) 情報提供システムの構築

情報通信技術の発達に伴い、従来からの観光ガイドブックやパンフレット、ポスターによる情報発信に加え、市ホームページや観光協会ホームページを開設し、インターネットを活用した情報提供システムを整備しました。さらに、市内の地図情報を市ホームページ上で公開する「電子地図情報提供サービス」を開始し、観光客への情報提供の充実を図っています。

また、(社)敦賀観光協会が、JR敦賀駅で観光案内所を年中無休で運営し、来訪者への案内業務を実施しているほか、観光客からの電話や、インターネットでの問い合わせに対しても観光情報を提供しています。

モバイル※技術の発展により、観光客が携帯端末を片手にまちなかを歩きながら情報を入手する今日、それらに対応した情報提供体制の充実が今後の課題となっています。

一方、CMやドラマ、映画誘致を通じて本市の知名度を高め、イメージアップを図るとともに、観光誘致を図ることを目的に「フィルムコミッション※」を設立し、ホームページの運営をはじめ撮影に必要な協力体制の確立に取り組んでいます。また、「ツヌガ君」をはじめ3体の敦賀市公認キャラクターを認定し、出向宣伝やパンフレット等で活用することにより、敦賀のイメージアップを図っています。

今後も来訪者の増加を図るには、観光都市敦賀のイメージを定着し、広く認知を図ることが必要となっており、引き続き効果的なPRを行っていくことが課題となっています。

※モバイル：移動性・携帯性・機動性などがあることを意味する表現。小型・軽量化、高性能化された情報通信機器やコンピューターなどの情報端末を形容する言葉として使われる。

※フィルムコミッション：映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムーズに進めるための非営利公的機関。

#### (4) 魅力的なイベントの実施

観光都市敦賀をアピールするとともに、観光振興に向けた市民の気運高揚を図るため、既存イベントや祭りの充実、新たな市民参加・協力型のイベントを実施しました。港の歴史や魅力を県内外にPRするため、平成11年、敦賀港開港100周年にあわせ「敦賀港開港100周年記念事業」や「敦賀ポートフェア」を開催したほか、平成18年度には、JR直流化開業にあわせた様々な開業記念イベントを開催し、県内外に広くPRを実施するなど、敦賀の知名度アップを図るとともに、多くの来場客に敦賀の魅力を提供しました。

また、エネルギー都市としての特色を活かした国際的なイベントとして「エネルギープラザ敦賀'98」の開催や、平成22年には福井市で開催されたAPECエネルギー大臣会合にあわせた啓発イベントを開催しました。

一方、恒例イベントである「花換まつり」「とうろう流しと大花火大会」「敦賀まつり」等の内容の充実を図るとともに、(社)敦賀観光協会、敦賀商工会議所、敦賀青年会議所、各商店街等、民間が主体となって積極的に実施するイベントについて支援を行っています。

イベントの開催は、観光振興の上で欠かせないものとなります。そのため、今後も各種関係団体と連携し、既存イベントの充実や各種記念行事の開催に取り組むことが必要となっています。また、より効果的に敦賀市をアピールする観点からも全国的な大会や会議などコンベンション※の誘致にも力を入れる必要があります。

※コンベンション：人を中心とした物や知識、情報などの交流を目的とした集会を意味する。具体的には、学会や業界、団体などの国際会議や全国大会、セミナー・シンポジウム・フォーラムといった研修会や学習会、見本市・展示会、博覧会、祝賀会・発表会などがある。

#### (5) 地域特性にもとづく商品開発

敦賀ならではの観光商品として、あらたな特産品の開発を目的に、地域ブランド創造事業等を実施し、「昆布ラーメン」や「芋粥」「マナまんじゅう」の開発や商品化を支援しました。また、「敦賀ふぐ」の商標登録に取り組み、ブランド化するとともに、PRと需要拡大を目的に「ふぐまつり」を開催し、観光物産フェアの中でもふぐ鍋体験を実施するなど、秋冬の敦賀を代表する味となっています。平成23年度からは「敦賀の新工芸品」を開発するための調査研究と、「港と鉄道のまちつるが」を絡めた新商品の開発にも取り組んでいます。

また、敦賀をより深く知ってもらう観光商品として、平成18年度から敦賀の自然、文化、産業等を活用した体験型観光メニューを提供する「遊敦塾」の運営を補助するなど、敦賀ならではの素材を活かした「敦賀ブランド」の確立にも取り組んでいます。

今後は、新商品開発への支援を継続するとともに、それらの商品の販路拡大や知名度向上に向けての取組が必要となっています。

## (6) 関連産業の振興

中心市街地の賑わい創出を目的に、商店街や地域団体が主体となって実施する、「清明の朝市」や「駅前ふれあい市」「百縁笑店街」の開催を支援しています。

また、年1回開催している「観光物産フェア」においては、かまぼこや昆布といった地元の特産物の販売にあわせ、ふぐ鍋体験や競り市体験を実施しているほか、若狭牛の販売、農産物や炭の販売等のブースが出展されるなど、幅広く敦賀の商業、農業、林業、水産業のPRの場となっており、平成23年度には69,000人が来場する、敦賀を代表するイベントとなっています。

また、平成18年度より(社)敦賀観光協会で実施している体験型観光「遊敦塾」では、地域に根づいた産業を観光資源とし、「地引網体験」や「魚さばき体験」「炭焼き体験」「ちくわづくり体験」など、産業観光の商品開発に取り組んでいます。

さらに舟溜り周辺の核となる施設として、「敦賀水産卸売市場」を整備し、港まちならではの競り市の見学が可能となったほか、周辺では、新鮮な魚を販売する施設も整備されました。また、「農産物直売所」を整備し、地場野菜や加工品を販売できるようになり、「伝統野菜」の復活事業とあわせ、販売促進に取り組むなど、関連産業と連携・協働により事業を展開しています。

今後も引き続き、他の産業への波及効果を見据えた事業展開ができるよう、産業間との連携体制を強化していくことが必要となっています。

## 2 港町まちなみ整備

### 【基本的な柱】

- (1) 既存の観光資源、歴史資源、自然資源の活用
- (2) まちのエントランス空間づくり
- (3) みなと周辺のまちなみ環境づくり
- (4) 市内観光資源を結ぶネットワークづくり

## (1) 既存の観光資源、歴史資源、自然資源の活用

新たな観光拠点として、平成 14 年に温泉施設「敦賀きらめき温泉リラ・ポート」を開設し、毎年市外から 10 万人規模の集客を誇る施設となっています。

また、自然環境資源の活用として、平成 18 年の J R 直線化に伴い、中高年のウォーキング需要が高まったことにあわせ、金ヶ崎公園と中池見湿地の散策路を整備しました。

二次アクセスにおいては、ぐるっと敦賀周遊バスの運行を補助しているほか、(社)敦賀観光協会がレンタサイクルを運営しており、平成 21 年には県道佐田竹波敦賀線の二夜の川沿いにおいて約 1,500m の自転車レーンの整備を実施しました。

他にも本市には、「赤レンガ倉庫」「旧敦賀港駅舎」「人道の港敦賀ムゼウム」など港まちとしての歴史を感じさせる資源や、「氣比神社」「金崎宮」などの歴史文化資源が豊富にあります。現在、中心市街地活性化基本計画により、これら中心市街地にある既存観光資源が点として存在するだけでなく、面としてエリア形成を図り魅力が高まるよう、保存・活用するための事業展開が進められています。

本市では、集客力の高い観光資源が中心市街地に集積していることもあり、中心市街地活性化基本計画を推進し、敦賀のさらなる魅力となるよう関係機関と連携しながら整備・活用を図ることが課題となっています。

## (2) まちのエントランス※空間づくり

まちの玄関口となる駅周辺の環境は、観光客がまちの印象を決める重要な場となります。本市では、J R 敦賀駅と敦賀港をつなぐ幹線道路の電線地中化、歩道の拡幅、舗装の高質化を行うとともに、敦賀市の特色である「港」や「鉄道」を連想させる「銀河鉄道 999」「宇宙戦艦ヤマト」のキャラクター彫刻像 28 体を沿道に設置し、中心市街地のシンボルロード※として整備を行いました。また、J R 敦賀駅については、観光客の情報拠点として観光案内所を構内に設置するとともに、平成 18 年度に「駅周辺整備構想」を策定し、駅交流施設と駅前広場、駅西地区の整備を一体的に推進しているところです。

まちの顔となる駅周辺整備は、観光だけでなく、新たな商業核の形成や市街地活性化など波及効果も大きいことから、平成 25 年度に供用開始予定となる敦賀駅交流施設や平成 28 年度に事業完了予定となっている駅西地区土地区画整理事業など、短期的・中期的に実施される事業の着実な推進を関係機関と連携し図っていくことが課題となります。

※エントランス：入り口。玄関のこと。

※シンボルロード：まちの顔となる道路のこと。

### (3) みなと周辺のまちなみ環境づくり

港まち敦賀を象徴するエリアの形成を図るため、平成 11 年度に金ヶ崎緑地の基盤整備を実施したほか、復元し寄贈された「旧敦賀港駅舎」を敦賀鉄道資料館として、また、休憩場として復元された「大和田邸別荘」を人道の港敦賀ムゼウムとして活用するなど、観光の核となる地域として整備を図りました。

また、港まち敦賀を代表する歴史的建造物「赤レンガ倉庫」のライトアップや外塀の改修工事、倉庫横広場の整備など、歴史資源の活用に向けた環境整備を着実に進めています。さらに、現在、金ヶ崎緑地周辺の観光資源を面的につなげるため「金ヶ崎周辺整備構想」を市民とともに策定し、市民との協働により構想の実現に向けた取り組みを進めているところとなっています。

港まちの風情が残る舟溜り地区においては、「みなとつるが山車会館別館」を平成 9 年度に開館し、隣接する旧大和田銀行本店である「敦賀市立博物館」とあわせ、歴史的レトロ建築物の活用に取り組んでいます。

敦賀港周辺エリアの整備は、「港まちつるが」を象徴する魅力的な観光エリアの創出につながる重要な取り組みであることから、今後、関係機関と連携し、中心市街地活性化基本計画や金ヶ崎周辺整備構想の実現を図ることが課題となっています。

### (4) 市内観光資源を結ぶネットワークづくり

市内観光資源を結ぶネットワークの形成は、観光客の回遊性を高め、滞在時間の延伸を図る重要な施策となります。

本市では、JR を利用した観光客や歩行者の利便性を高めるとともに、JR 敦賀駅から氣比神宮、金ヶ崎周辺、舟溜り地区への周遊性を高めるため、中心市街地に集積する観光地への距離等を表示した「観光案内板」を 24 基設置しました。また、JR 敦賀駅と並び、「北陸地域」「嶺南地域」へ来訪者を迎える玄関口となる敦賀インターチェンジ付近に「大型歓迎塔」を設置し、イメージアップを図りました。

さらに、まちなか散策を促進するため、駅前駐車場の拡張と白銀駐車場を整備したほか、レンタサイクル事業を実施、平成 18 年には JR 敦賀駅から市内観光地への二次アクセスとして「ぐるっと敦賀周遊バス」を運行し、市内に点在する観光地を結ぶ交通ネットワークの整備に取り組んでいます。

今後も、標識や看板などの充実をはじめ、観光客がまちなかをより回遊しやすくするため「レンタサイクル」や「ぐるっと敦賀周遊バス」の利便性向上、パークアンドライド※の促進など、二次アクセスの充実を図ることが課題となっています。

※パークアンドライド：自動車を駅周辺の駐車場に停めて(Park)、電車やバスに乗り換えてもらう(Ride)ことで、交通渋滞対策や環境対策の一環として推進されている。観光分野では、まちなか観光の促進や駐車場対策の観点からも推進されている。

### 3 郊外部における自然資源等の活用

#### 【基本的な柱】

- (1) 観光資源、歴史資源、自然資源の活用
- (2) 新たな観光施設の整備

#### (1) 観光資源、歴史資源、自然資源の活用

本市の観光振興において自然資源の保全・活用は重要な要素となっています。そのため、名勝「気比の松原」の環境美化に通年取り組んでいるほか、夏場の海水浴シーズンの代表的スポットである水島については、侵食に伴い養浜工事を実施しています。

また、東浦地区においては水際環境を活用し、鞆山、田結海浜公園を整備するとともに、赤崎海浜公園についても、現在引き続き整備を進めています。

さらには、金ヶ崎公園と中池見湿地を結ぶ散策路の整備、歴史的価値の高い「木ノ芽古道（新保～木ノ芽峠間）」を整備するなど、自然散策路を魅力的な観光資源として活用できるよう環境整備を図りました。しかし、自然観光資源や歴史的観光資源については、観光資源として利用することにより、逆にその価値や希少性を破壊する恐れのある資源が多いため、保全や保護の観点を踏まえ、その活用についての方向性を検討していくことが課題となっています。

#### (2) 新たな観光施設の整備

旧計画では、本市に日本最初の関所の一つである「あらしの関」があったことに関連して、塩津街道沿道に道の駅の整備が位置付けられていましたが、平成8年から取り組んだ「愛発関（あらしの関）」試掘調査では、関連する遺構を確認できなかったため、整備事業には至っていません。

一方、平成18年から(社)敦賀観光協会が運営している遊敦塾では、漁業や農業、林業といった地場産業と連携した体験型観光を実施しており、新たな旅行商品として販売に取り組んでいます。

また、農業を活用した観光交流拠点として、平成22年に農産物直売所「ふるさと夢市場」を開設し、地場野菜や加工品、伝統野菜を販売するとともに、関連する料理教室等を開催しています。

本市の郊外部は、マリンレジャーの宝庫である西浦や田園が広がる東浦など、趣の異なる体験ができる環境となっています。そのため、これら既存の資源を組み合わせ、新たな観光資源として敦賀の魅力を高めていくことも必要となっています。

## 4 広域観光の振興

### 【基本的な柱】

- (1) 広域観光ネットワークの形成
- (2) 広域交通ネットワークの整備

### (1) 広域観光ネットワークの形成

敦賀市だけにとどまらない観光のネットワークづくりとして、美浜町、若狭町と連携し団体バスの誘致に取り組んでいるほか、平成 22 年度は、NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映に伴い、江姫ゆかりの地である長浜市と連携し観光客の誘致事業を実施しました。その後も引き続き長浜市と連携し「石田三成・大谷吉継」のPRを進めているところです。

また、杉原千畝「命のビザ」をテーマとした外国人ツアーの誘致について、杉原千畝の生誕地である八百津町と連携を図るなどの取組も検討されています。

広域観光は、そのスケールメリット\*を活かすことで、充実した観光PRや観光メニューの提供、さらには広域交通網の整備促進などが期待できるため、今後も引き続き、周辺市町との連携体制強化を図りながら観光振興戦略を展開することが課題となります。

※スケールメリット：規模を大きくすることで得られる効果。

### (2) 広域交通ネットワークの整備

本市では平成 18 年度のJR 直流通化にあわせ、沿線各市町への出向宣伝や開業記念イベントなど様々な事業を実施しました。その結果、平成 22 年度のJR 敦賀駅乗車人員は1日あたり3,873人と直流通化前に比べ、約1,000人増加するといった大きな効果がみられました。道路網では、金山バイパスの開通や、国道8号バイパスの全線開通など広域交通網の整備が図られました。金山バイパスについては、嶺南地域からの交通利便性の向上につながりましたが、国道8号バイパスについては、利便性が向上した反面、敦賀市街地を通らず通過してしまうといった問題も見られます。

広域交通網の発展による効果は、観光において即時的にあらわれるため、今後、本市を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するため、短期的・長期的な展望で関係機関と連携し市内への誘導を図るための取組が重要となります。

## 第4節 敦賀市観光振興の課題

### 1 SWOT分析

マーケティングでよく用いられる「SWOT分析」の手法により、本市の観光の強みや弱み等を整理すると次の通りとなります。

|            | 強み (Strength)                                | 弱み (Weakness)                   |
|------------|--|---------------------------------|
| 内部要因・環境    | ○北陸ブロック、嶺南地方の入り口であり、広域交通の要衝の位置を占める           | ○多様な観光資源のあり方や方向性が不明瞭            |
|            | ○環日本海を代表する国際港を持つ                             | ○観光スポットへの二次アクセスの整備              |
|            | ○港の歴史が生んだ景観、歴史文化、産業                          | ○点在する観光資源のネットワーク化               |
|            | ○港の歴史が生んだ歴史的建築物                              | ○観光資源相互の連携が不十分(まち歩き、テーマコース、回遊性) |
|            | ○敦賀港が日本海側拠点港に選定                              | ○ホスピタリティー意識の不足                  |
|            | ○新鮮な海産物、特産物、食(敦賀ふぐ、越前がに、おぼろ昆布、かまぼこ等)         | ○おもてなしの体制(観光事業者、商店街、観光ボランティア)   |
|            | ○一方は海に面し、三方は山に囲まれた地勢による豊富な自然資源               | ○個人、小グループ志向への対応の遅れ              |
|            | ○海水浴、釣等のレジャースポット                             | ○マイカー客への情報発信(看板、周遊性等)           |
|            | ○国の名勝指定がされている景勝地、庭園                          | ○自然、歴史資源の保全と活用策が不明瞭             |
|            | ○電源立地地域                                      | ○観光産業の担い手の高齢化、後継者不足             |
|            | ○温泉資源  | ○中心市街地の空洞化                      |
|            | ○四季折々の自然                                     | ○大型イベントに頼った集客                   |
|            | ○四季折々に開催されるイベント                              | ○食のブランド力が弱い                     |
|            | ○豊富な歴史・文化的観光素材(祭り・スポット)                      | ○夜の観光の魅力不足                      |
|            | ○広域連携の可能性や効果が高い(滋賀県、嶺南、嶺北、北陸ブロック)            | ○他の観光地との差別化ができていない              |
|            | ○平成25年度JR敦賀駅新駅舎開業                            | ○外国人観光客の受け入れ態勢不足                |
|            | ○駅周辺地域の開発                                    | ○季節により観光客誘致にムラがある               |
|            | ○中心市街地活性化基本計画                                | ○ビジネス客を次の観光客にできていない             |
| ○金ヶ崎周辺整備構想 | ○旅行エージェントへの情報発信不足                            |                                 |
|            | ○戦略的なマーケティング、情報発信事業が展開できていない(ターゲット、有効的な情報発信) |                                 |
|            | ○受け身観光から脱却できていない                             |                                 |
|            | ○民間主導型施策実現の遅れ                                |                                 |
|            | ○トイレ・駐車場・休憩施設の不足                             |                                 |



| 外部要因・環境 | 機会 (Opportunity)  | 脅威 (Threat)  |
|---------|---|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○国をあげてインバウンド観光を推進(ビジットジャパン)</li> <li>○団塊世代の退職による市場拡大</li> <li>○体験観光の人气が高まり、漁業、農業、林業が観光資源となる時代が到来</li> <li>○健康志向により、自然資源や新鮮な食資源が注目される</li> <li>○JR直流化による関西圏とのアクセスの向上(平成 18 年 10 月)</li> <li>○舞鶴若狭自動車道の全線開通(平成 26 年度予定)</li> <li>○北陸新幹線敦賀までの着工決定</li> <li>○平成 24 年敦賀長浜間鉄道開通 130 周年、敦賀ウラジオストック定期航路開設 110 周年、欧亚国際連絡列車運行 100 年</li> <li>○平成 30 年福井国体で行われる 6 競技の会場に決定</li> <li>○平成 23 年度に福井大学付属国際原子力工学研究所が開所</li> <li>○平成 26 年度に 4 年制大学開校</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○経済低迷、社会不安等による旅行者の減少</li> <li>○主要マーケットである関西、中京圏の人口減少</li> <li>○加速する高度情報化社会</li> <li>○団体旅行の減少</li> <li>○多様化する観光客のニーズ</li> <li>○観光客誘致の競合激化</li> <li>○近隣(嶺南)市町との競合激化</li> <li>○広域交通の高度化による通過型、日帰り型観光の増加、滞留時間の減少</li> <li>○国の原子力政策の影響</li> <li>○全国的な脱原発志向の影響</li> <li>○自然災害等による観光地の損壊、旅行者減</li> <li>○レジャーの多様化による海水浴客の減少</li> <li>○観光客の民宿離れ</li> </ul> |

## 2 課題の整理

### (1) 観光都市としてのイメージの定着

観光誘客を図るには、観光客が来訪先として選択するだけのイメージ力、ブランド力が重要となります。本市では、「金ヶ崎緑地」など港まち敦賀として整備された観光資源がある一方、「気比の松原」をはじめとする自然資源や、「気比神宮」をはじめとする歴史資源など、多くの観光資源があります。しかし、いずれも全国的な知名度は高くなく、観光誘客の観点からはインパクトに欠けるのが現状です。また、観光資源相互のネットワーク化も不十分であり、観光資源が市街地に集積している利点を活かさない状況となっています。このことは同時に、同様の地域性を有する周辺地域との差別化が図られず、観光都市としてのイメージが定着しない要因ともなっています。

また、市民が持つ意識も大きく影響しています。本市は「港」や「エネルギー」を中心に発展してきた経緯があり、市民の観光振興に対する意識は低いのが現状です。そのため、歴史的な「港と鉄道のまち」としてのイメージを市民とも共有し、観光資源の整備や観光プロモーション\*等により市内外にイメージ定着を図ることが課題となっています。

※プロモーション：消費者の購買意欲を喚起するため、商品やサービスの認知、理解、好感度、ブランド力を促進・向上させる一切の宣伝活動。

### (2) 受入れ体制の充実

来訪者の満足度を高め、再訪や長期滞在につなげるには、来訪者に心から満足してもらえる受け入れ体制が重要となります。特に地域の人々からのもてなしは、観光客の印象に大きな影響を与える要素となります。

しかし先述の通り、本市は「港」や「エネルギー」を中心に発展してきた経緯があり、市民の観光振興に対する意識は低いのが現状となっています。そのため、まず市民のホスピタリティを高めていくことが重要な課題となります。同時に、観光ガイド・ボランティア等の育成をはじめ、宿泊、案内板、交通アクセスなどの環境改善、SNS\*等を利用した情報提供の充実など観光客の視点に立ち、受け入れ体制を整備していくことが課題となっています。

※SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス (social networking service) の略で、個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するインターネットを利用したサービスのこと。

### (3) 多様な観光資源の活用と保全

本市には、港町としての歴史を背景としたレトロ<sup>※</sup>な建築物や市街地に点在する歴史資源をはじめ、湿原や古道など郊外に広がる貴重な自然資源や歴史資源など、民間施設を含め様々な観光資源に恵まれています。しかし、これらの資源についても誘客や周遊性、経済効果の観点から十分な活用が図られていない現状がみられます。

他の観光地との差別化を図り競争力・魅力を高めていくには、旅行ニーズの変化や国際化など、市場環境の変化に適宜、対応していくことが重要となります。そのため、マーケティングの視点のもと、既存の観光資源のブラッシュアップ<sup>※</sup>や活用方策の見直し、新商品の開発を図っていくことが課題となります。

特に本市の自然資源や歴史資源には、観光資源として利用することにより、逆にその価値や希少性を破壊する恐れのある資源もあるため、保全や保護の観点を踏まえつつ誘客効果の高い観光資源については整備・活用を図っていくことが課題となります。

※レトロ：retrospective（回顧）の略語で、懐古的、古いものを好むこと。

※ブラッシュアップ：みがき上げること。また、一定のレベルに達した状態からさらにみがきかけること。

### (4) 観光振興の推進体制

観光振興を着実に進めるには市民を含めた推進体制の確立・強化が重要となります。近年、協働のまちづくりが進められる中、本市の観光振興においても観光事業者や観光協会等の観光推進組織、行政のそれぞれが本来担うべき役割を明確化し、相互に連携・協力しながら取組を進めていくことが求められています。そのためには特に、本市における観光事業推進の中心となる（社）敦賀観光協会や港都つるが株式会社等の観光推進組織の運営体制を強化していくとともに、「観光カリスマ」と呼ばれるようなリーダー的人材を育成・登用していくことも課題となっています。

また、近隣自治体や県と連携することで、スケールメリットを活かした観光PRやメニューづくりが期待できる広域連携を推進していくことも重要となっています。